

写真でみる白沢小学校 140年のあゆみ



宇都宮市立白沢小学校

明治6年(1873年) 創立 本堂を間借した【初代の校舎】



明星院本堂（真言宗智山派龍池山明星院駄都寺）

【写真2】



明治6年（1873年）5月24日（土）に白沢宿明星院本堂を仮校舎とし、「修身舎」と称して開校した。当時の通学区域は、上岡本・白沢・長峰・下ヶ橋・西芦沼であった。

【写真3】

明治 23 年(1890 年) 白髭神社の前に新校舎が落成する【2 代目校舎】



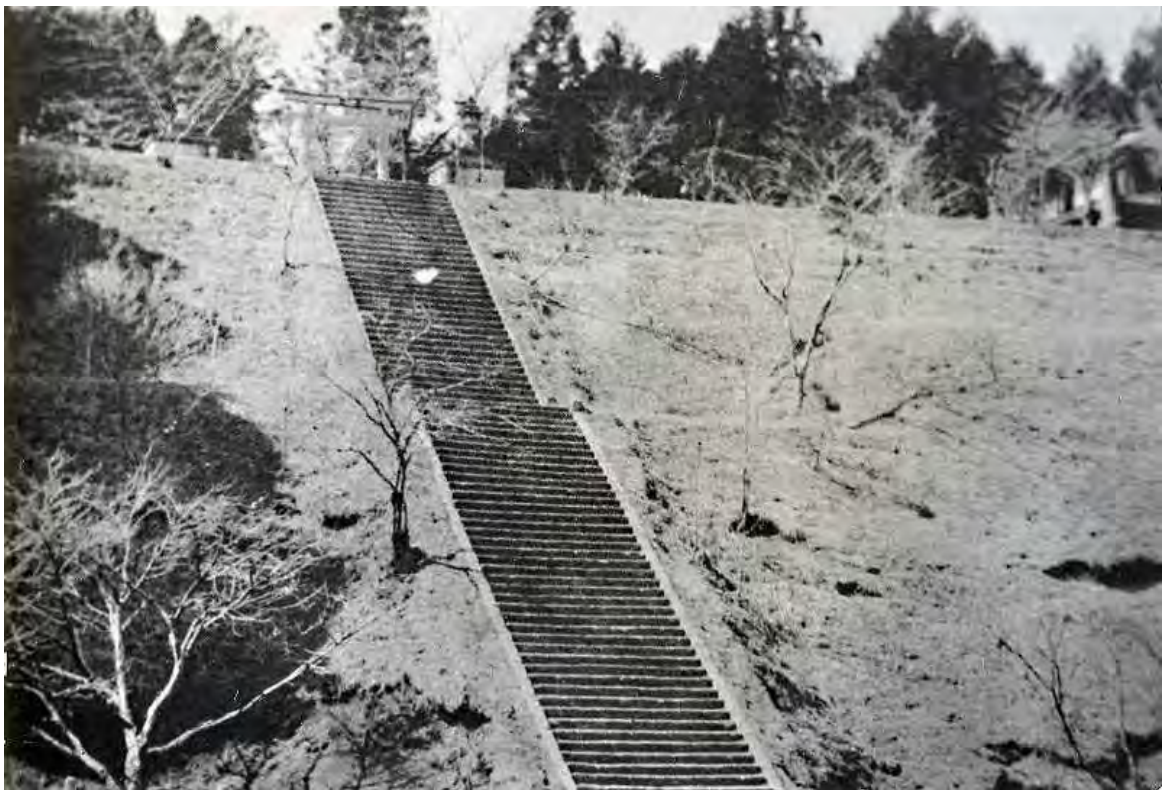
現在は、白髭神社前の「宇都宮市シルバー人材センター」の場所 【写真 4】



明治 45 年の卒業生から贈られた振り鐘。現在も運動会等で現役活躍中。 【写真 5】

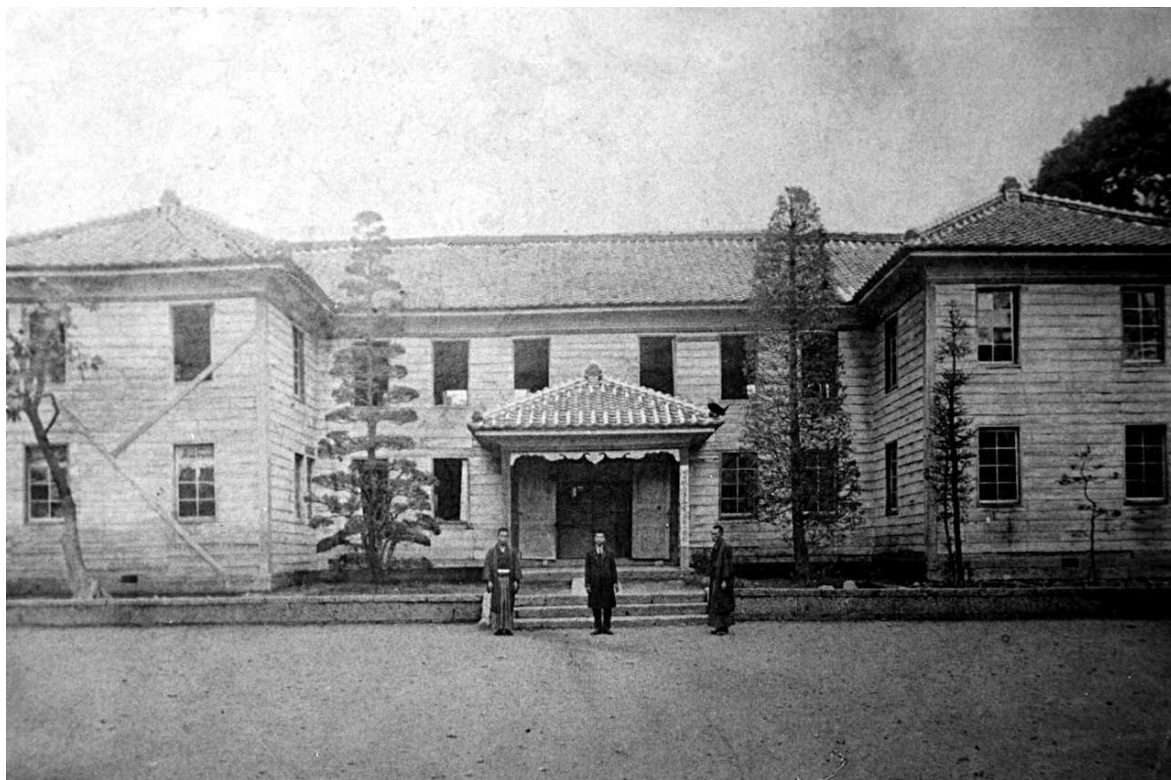


大正4年9月 大正天皇の即位記念撮影の2年生（明治40年生まれ） 【写真6】



大正5年当時の白髭神社の階段 この直下に2代目校舎と校庭がある 【写真7】

2代目の校舎があった場所の移り変わり



移転のための作業は、大正9年2月に行われた。窓枠が無く、躯体が傷んだように見えるこの写真は、ちょうどその移転作業の頃の撮影かもしれない。 【写真8】



その後この場所には、村役場（旧町役場）、そして後の中央公民館が建てられた。

【写真9】

現在は、宇都宮市シルバー人材センターの建物が建っている。



【写真10】



大正8年頃の現在の白沢小学校の場所における体操の様子。造成途中でまだ校舎は建築されていない。当時、この付近「白沢台」は俗称「学校山」とも呼ばれていた。この土地は、白髭神社より古里村が購入したものである。【写真 11】



その当時（大正時代）の白沢宿の様子

【写真 12】

大正 10 年(1921 年) 白沢小学校が現在の地に移転する【3 代目校舎】



校舎落成時と伝えられる写真 左側の人物は、当時の釜井吾平村長 右側の人物は、自由教育を推進した高橋田麿（たかはし たまろ）校長 【写真 13】



大正 13 年建立の正門。現在の正門脇に保存されている 【写真 14】

大正 14 年(1925 年) 白沢小学校で自由教育研究発表会が開催される



【写真 15】

自由教育研究

1. 2. 號 究 研 習 畢

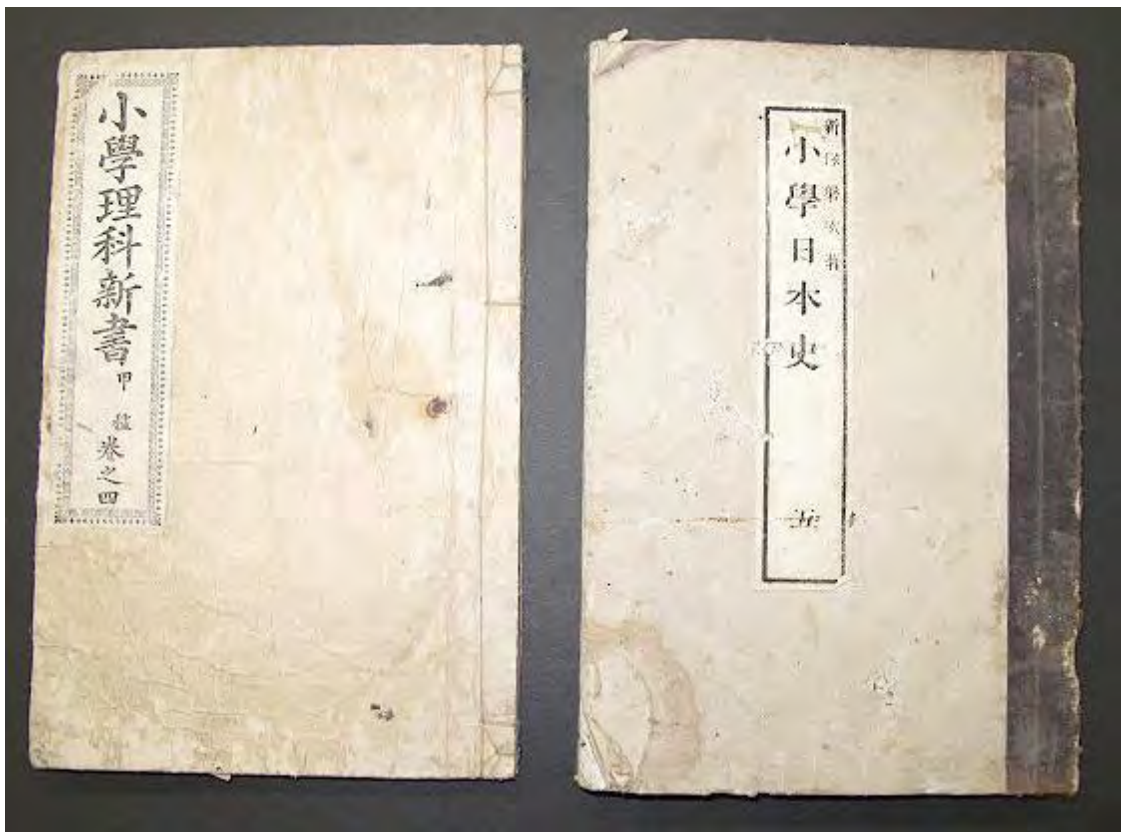
自由教育徹底運動……………手塚岸衛 二 自由教育學習觀……………佐久間治八 六 學習指導の重要觀點……………吉田彌三郎 三 讀方學習の根本問題……………杉田信義 七 理科學習上の實驗……………大木健男 四 圖書學習の態度……………高木金次郎 五 尋四理科學習指導の實際……………川島伊織 三 自治會指導の難局に直面して……………木島政一 四 新生の立體地理教育の……………鈴木善平 五 原理と價值……………石井信二 四 修身の學習……………豐田 五 規範意識の性質と德育……………水島川 生 四 各地の自由教育の狀況……………編輯 五 編輯より……………	自由教育徹底運動……………手塚岸衛 二 自由教育學習觀……………佐久間治八 六 學習指導の重要觀點……………吉田彌三郎 三 讀方學習の根本問題……………杉田信義 七 理科學習上の實驗……………大木健男 四 圖書學習の態度……………高木金次郎 五 尋四理科學習指導の實際……………川島伊織 三 自治會指導の難局に直面して……………木島政一 四 新生の立體地理教育の……………鈴木善平 五 原理と價值……………石井信二 四 修身の學習……………豐田 五 規範意識の性質と德育……………水島川 生 四 各地の自由教育の狀況……………編輯 五 編輯より……………
--	--

行 發 轉 編 會 楊 白 內・附・師・干

自由教育は、大正デモクラシーの波と共に、画一的な知識注入を排除し、子どもの自学や自治をとおして、個人尊重を基本とする教育を目指し、学習においては、個人別進度を認め、児童中心の学級を經營するという、当時としては大胆な教育活動であった。この新教育運動は、栃木県内で小学校教員をした後、大正8年に千葉県師範学校附属小学校の手塚岸衛（てづか きしえ）【塩谷町大宮出身】が全国に広めようとしていた教育実践運動で、白澤尋常高等小学校は栃木県内でも最も早い学校のひとつであった。

上の写真は、その研究会の時に撮られたものと思われ、中央に高橋校長、その右が手塚岸衛である。

左は当時の教育雑誌。【写真 16】

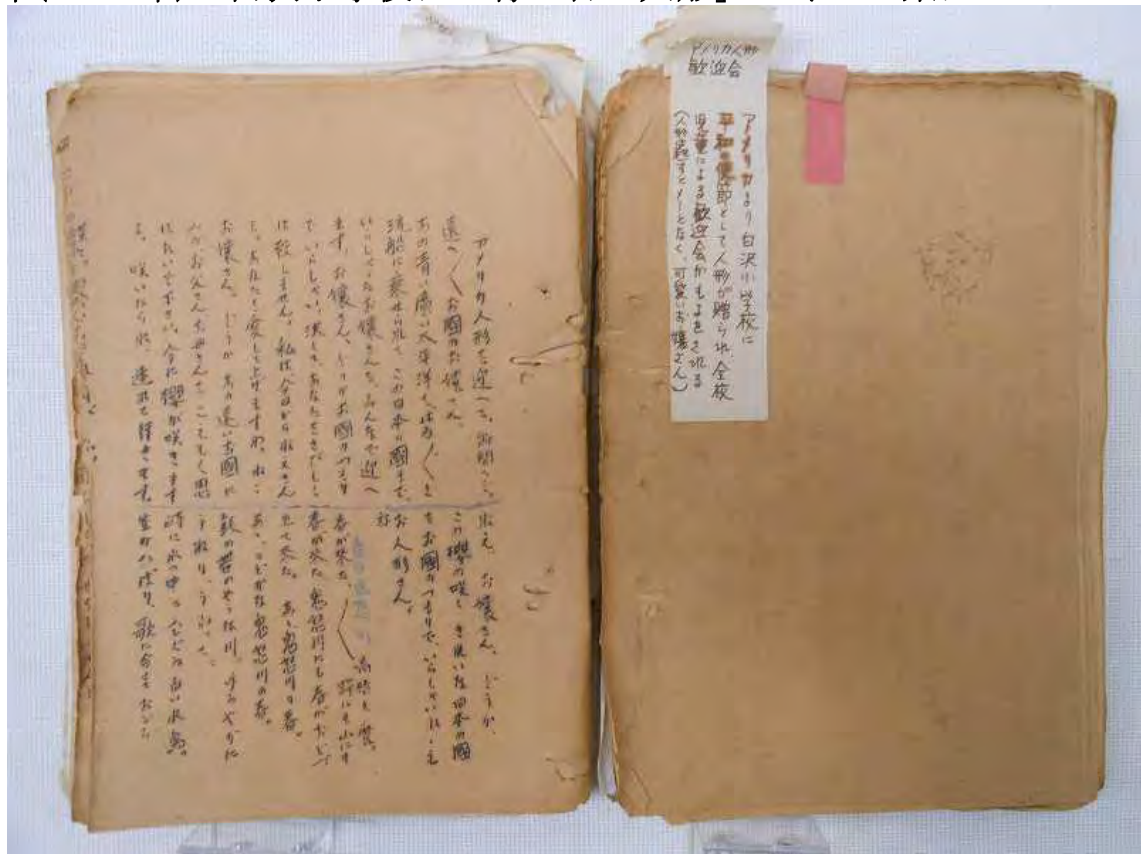


当時の教科書 右：明治 22 年 『小學校日本史』 【写真 17】
左：明治 25 年 『小學校理科新書 甲種 卷之四』

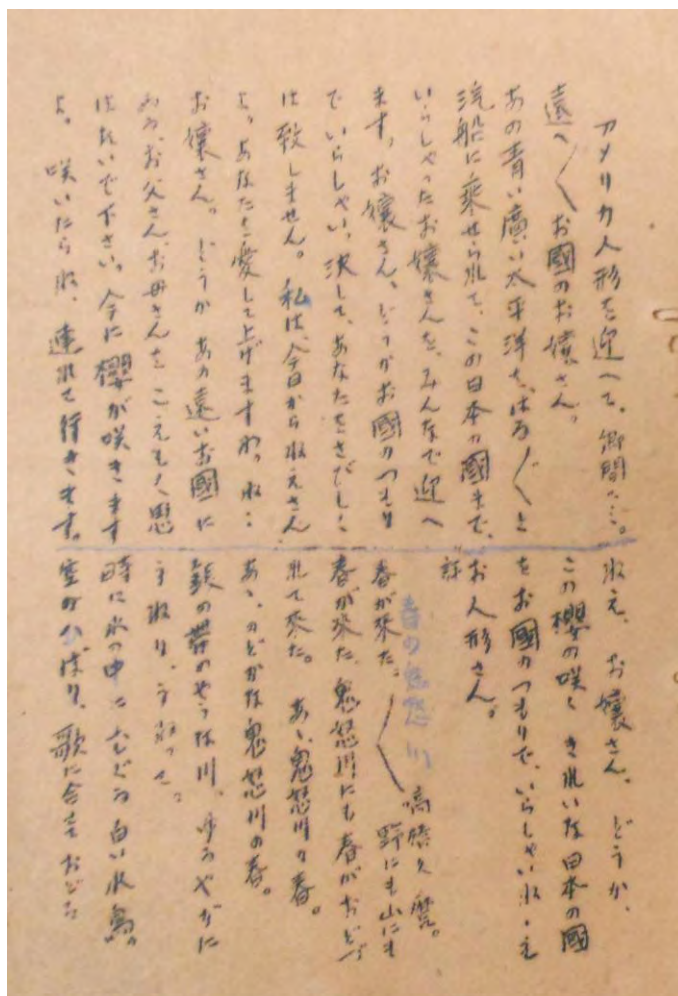


当時の教科書 右：大正 15 年 『尋常小學校 國語讀本 卷十』 【写真 18】
左：昭和 2 年 『兒童用 高等小學校修身書 卷一』

昭和3年(1927年) 白沢小学校に「青い目の人形」がやって来た！



【写真 19】



昭和3年，日米対立の緊張を文化的に緩和しようと，アメリカ人のシドニー・ギューリック博士の親善活動により，アメリカから同年3月3日に間に合う様，日本の子供に12,739体の「青い目の人形」が贈られた。白沢小学校の人形はその内の一体で，寝かすと「メー」と泣くものだったという。この作文は，人形が来た時の感動を伝えるもので，自由教育の貴重な資料として，栃木県立博物館に貸し出しされて展示されており，見学することができる。「今に櫻が咲きますよ。」という記述から時期が特定できる。

昭和4年(1929年) 卒業記念樹「くすのき」



【写真 20】

近づく戦争の足音



この写真は、本校にあった奉安殿（ほうあんでん）で、天皇・皇后の写真（御真影）と教育勅語が納められていた。四大節（四方節 1/1, 紀元節 2/11, 天長節 4/29, 明治節 11/3）の祝賀式典には、職員児童全員で御真影に最敬礼と、教育勅語の奉読を行った。また、登下校時等には、全員が服装を正してから最敬礼することになっていた。本校では、昭和9年から昭和22年頃まで、現在の学童保育子どもの家付近の場所にあった。【写真 21】



戦前から戦中の撮影と思われる子どもたちの記念写真

【写真 22】



戦前から戦中期の撮影と思われる教職員の記念撮影

【写真 23】

第2次世界大戦（太平洋戦争）がはじまる



昭和 16 年に当時の高崎板紙株式会社から本校に贈られた大太鼓。宇都宮市伝馬町の小野崎太鼓店製の焼印がある。

【写真 24】



太鼓には、「大東亜戦争大詔奉戴記念 昭和十六年十二月八日」との銘がある。

大詔奉戴日とは、大東亜戦争（太平洋戦争）勝利のため、開戦した昭和 16 年(1941 年)12 月 8 日に、「宣戦の詔勅」が発せられたことにちなんで、昭和 17 年(1942 年)1 月 2 日に閣議決定し、毎月 8 日を大詔奉戴日として終戦まで続けられた。この日には、国旗掲揚や宮城遥拝、詔勅・勅語の奉読、御真影奉拝などが行われた。

しかし、この太鼓に記載された日（開戦記念日）には、まだ大詔奉戴日が制定されていないため、大詔奉戴日が制度化されてから、開戦記念日にまで遡って太鼓を記念品として制作し、本校に寄贈されたたものと思われる。当時の様子を伝える史料資料である。



昭和 18 年の入学式。屋外での実施で、正面壇上の人物に注目している。校舎の配置や人物の影の向きから、朝礼台は校庭の西側にあり、東を向いていることがわかる。このことから人々は、奉安殿に向いて整列していると思われる。戦中の様子がわかる史料である。 【写真 25】

戦時中の子どもたちの様子。木刀でわら人形を打っている。学校には軍隊からの配属将校も来ており、軍事教練という科目の指導にあたるなどしていた。

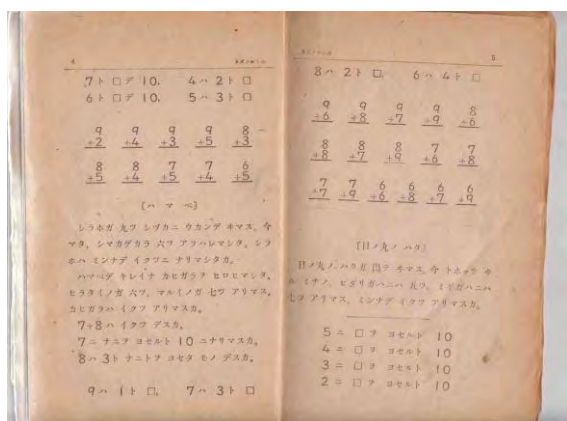
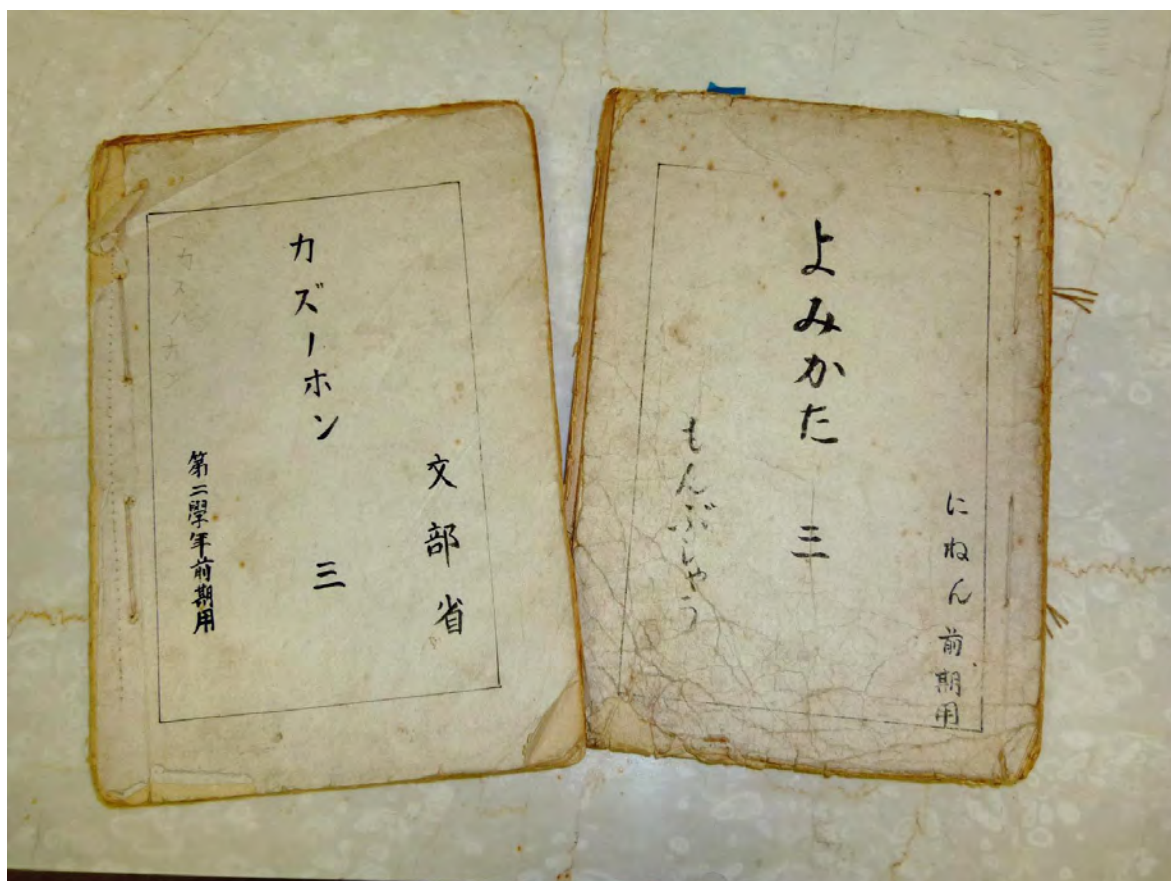
国民学校では、教練銃による射撃訓練等もあり、当時の本校の武器庫は、現在の体育器具庫のところにあった。 【写真 26】



昭和 18 年に全日本健康優良児童表彰会から送られた表彰額。メダルには「健康児童賞」「朝日新聞」「昭和 18.6.25. 西望」の印刻がある。メダルの横顔は桃太郎で、この表彰事業は、「日本一の桃太郎探し」という標語もあった。

「西望」とは 日本を代表する彫刻家北村西望で、代表作の「長崎平和祈念像」は有名である。この事業は朝日新聞が主催し、文部省の後援の下、昭和 5 年(1930)～昭和 17 年(1942)までと、その後中断を経て、昭和 24 年(1949)～昭和 53 年(1978)まで実施された。しかし本校の表彰は、昭和 18 年となっていて、文献上では中断の時期であり、詳細は不明。 【写真 27】

昭和 21 年(1946 年) 平和な世界の訪れ そして再出発

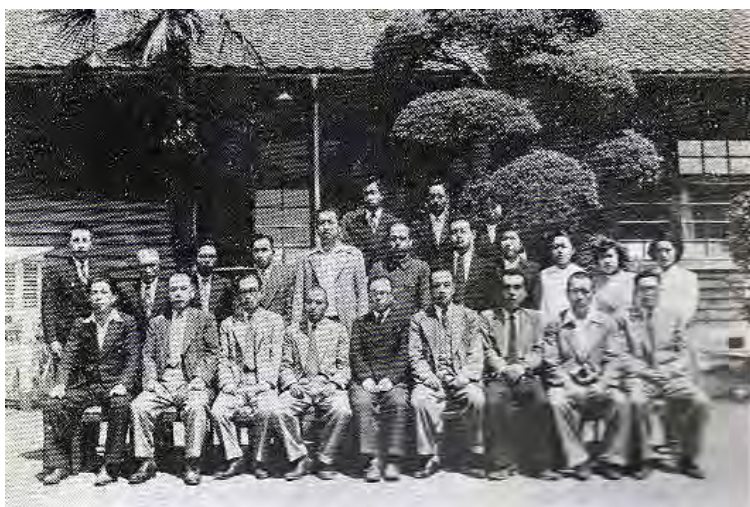


昭和 21 年度用に文部省が作成した暫定教科書で、白沢南の永井光二さん所有のものである。分冊形態で、薄い貧弱な紙質の粗末な教科書で、他では母親が新聞紙と間違えて、弁当の包み紙にしてしまったという話も残っている。約 42cm×60cm の 1 枚の紙を八ツ折にして 1 面に 8 ページ分印刷してあり、それを各自で切って本に綴じた。「よみかた三」は 2 年前期用で、昭和 21 年 3 月 10 日、昭和 21 年 5 月 15 日、昭和 21 年 9 月 7 日の 3 分冊となっており、それぞれ配布された。いずれも日本書籍製。もともと厚い表紙がなく、永井氏の御母堂が心をこめて作った手製の表紙が、子を思う親の愛情を今に伝えている。【写真 28】

昭和 28 年（1953 年）創立 80 周年



【写真 29】



創立 80 周年記念誌の巻頭写真から。上は当時の正門からみた学校の様子。大正 13 年の門柱が見える。

左は職員写真。旧校舎の前，後ろにつげの木が見える。最前列右から 4 番目の人物が田中恒夫校長。

【写真 30】

昭和 28 年に，創立 80 周年記念事業として記念誌の発行や，児童図画公開審査会，記念体育祭，記念文化祭（学芸会）記念文集の発行が実施された。記念誌には当時の「つづり方」の成果として，児童の作文や詩，俳句が掲載されている。

記念式典では，美術史学者で宇都宮大教授や栃木県文化財保護審議会委員を務め，栃木の文化財の紹介，保護に功績のあった野中退蔵先生の記念講演が行われた。

【写真 31】



昭和 30 年(1955 年) 村合併により校名変更



昭和 30 年に古里村と田原村が合併して河内村となり，校名も河内村立白沢小学校となった。

【写真 32】



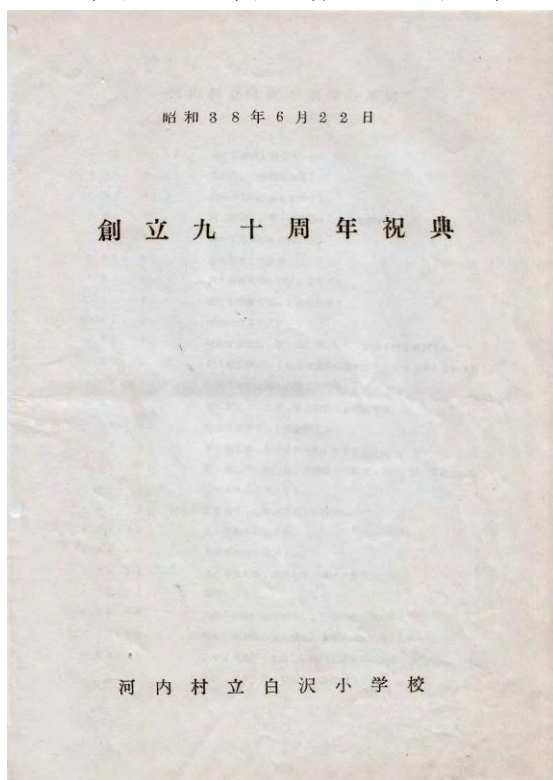
【写真 33】



【写真 34】

昭和 30 年は，二宮尊徳没後 100 年にあたり，これを記念して，地域の方々により造像，寄贈された。題字は船田 中氏によるものである。もう一体ある尊徳像（上の写真，北門の東）の詳細は不明である。

昭和 38 年(1963 年) 創立 90 周年



【写真 35】



国旗掲揚塔

【写真 36】



時計塔と 4 代目校舎

【写真 37】

昭和 38 年 (1963) に、創立 90 周年記念事業として、校門 (南門)、講堂前の庭園、国旗掲揚塔、小鳥小屋、ジャングルジム、低鉄棒 2 基、時計塔、バックネットの補修等が、多数に地域の方々の寄付、寄贈により行われた。

また、野芝 150 坪、山つつじ 300 本の植栽作業が、延べ 700 名の P T A の皆様方の奉仕作業によって実施された。

昭和 42 年(1967 年) 初代体育館落成



古い講堂で举行された創立 90 周年記念式典の様子 机と椅子は児童用【写真 38】



昭和 29 年から昭和 33 年にかけて、大正時代から使い続けていた木造校舎の建て替えや校庭拡張を実施し、昭和 34 年に 4 代目の新築木造校舎の落成式典を行った。それから昭和 63 年まで、この木造校舎を使用し続けられた。しかし講堂は以前からの古い建物であった。

昭和 40 年 9 月 24 日の台風 26 号により講堂が傾斜し、使用不能となった。そのため、念願の新築工事に着手し、昭和 42 年に体育館兼講堂の落成式を行った。

同じこの年、校舎北側に特別室（図工室、音楽室）が落成した。

現在の体育館は、平成年に建て替えられた 2 代目である。

【写真 39】

昭和 43 年(1968 年) 明治百年記念



明治百年を記念して正面玄関前に「歴史の丘」をつくり、伝統のつげの木を移植した
【写真 40】

昭和 45 年(1970 年) 環境緑化コンクール入選



環境緑化コンクールに入選，優秀校として表彰を受ける。 【写真 41】

昭和 48 年(1973 年) 創立 100 周年



【写真 42】



100 周年記念樹 シロヤシオツツジ 【写真 43】



記念誌 【写真 44】

昭和 48 年に、創立 100 周年記念事業として、記念碑、記念造園、視聴覚教育機器類、楽器が整備された。また記念誌の発行、記念式典、記念運動会などを行った。



完成した 100 周年記念碑と，当時の八木沢膳太校長

【写真 45】



現在の 100 周年記念碑と，その向こうには 100 周年記念樹シロヤシオツツジ

【写真 46】

昭和 48 年(1973 年) 正門の変更



西門が正門となり，大正 10 年以来，52 年間努めてきた正門は南門と改称した

【写真 47】

昭和 50 年 1975 白沢音頭の制定



【写真 48】

昭和 51 年(1976 年)



【写真 49】

昭和 63 年(1988 年) さよなら木造校舎



現在のコンクリート校舎は平成元年に落成した（5 代目校舎） 【写真 50】

平成 5 年(1993 年) 創立 120 周年



【写真 51】

平成 13 年(2001 年) 21 世紀のスタート



大正 13 年に作られた正門の門柱を、現在の正門前に保存した【写真 52】

平成 15 年(2003 年) 創立 130 周年



【写真 53】

平成 25 年(2013 年) 創立 140 周年



【写真 54】

140 周年記念事業 【写真 55】

P T A会員の皆様や地域の皆様のご協力により、下記の事業について事業を行うことができた。また地域協議会の学校応援基金からも、毎日の掲揚用校旗1枚を新調していただいた。ここに記して、関係者の皆様に感謝申し上げます。



空撮写真を入れた児童用下敷の作成



横断幕の作成



大型カラープリンターの購入

成果品



140 周年記念運動会



140 周年記念式典

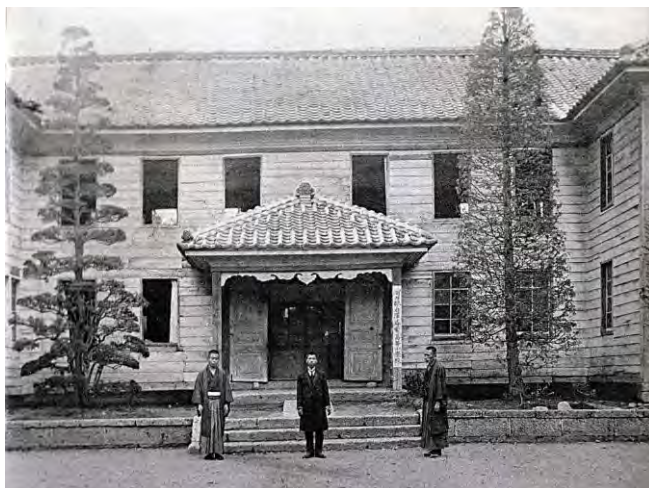


140 周年記念演奏会（栃木県警察音楽隊）

本校のシンボル「つげの木」の移り変わり

明治23年に白髭神社の下に2代目の新しい校舎を建てた時、当時の古里村役場にあったつげの木を学校の前に移植した。この写真の左側の木が、そのつげの木である。

【写真 8】



その後、大正10年に、現在の位置に建てた3代目校舎の正面玄関脇（西側）に移植された。昭和30年の80周年記念写真には、職員の後方右側に写っている。【写真 25】

昭和48年に、明治百年を記念して正面玄関前に「歴史の丘」をつくり、伝統のつげの木を移植した。巨木を移植する際には、植え替えのストレスを軽減するため、根と枝を剪定したため、以前より小振りな樹幹となった。【写真 56】



現在のつげの木の姿。平成元年の現在の5代目コンクリート校舎に改築する際、1年生の教室の前で、かつ昇降口の前に、かつての「歴史の丘」にあった銘石と共に移植された。主幹に腐朽が見られるが、毎日元気な子どもたちを見守っている。推定樹齢 約200年 【写真 57】

公印に見る白沢小学校の歴史



印：「第一大学区 第四十番中学区 第八番小学 修身館之印」

- ・第1大学区は、学制発布時に設定され、東京府と13県（神奈川県、埼玉県、入間県、木更津県、足柄県、印旛県、新治県、茨城県、群馬県、栃木県、宇都宮県、山梨県、静岡県）
- ・明治7年当時の公印（現在、使用例が発見できない公印）



『明治12年4月3日 卒業之證』に用いられた印

印：「第一大学区 第三十九番中学区 第四十五番小学 修身館之印」

校名：第一大学区栃木県第三十九番中学区第四十五番小学

河内郡白澤宿修身舎

- ・明治10年当時の公印



『明治13年11月16日 卒業之證』に用いられた公印

印：「白澤宿小学校修身舎」

校名：栃木県河内郡第六番小学区 白沢宿修身舎

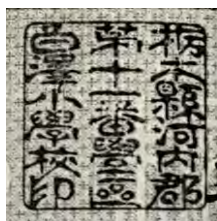
（白黒写真からの転写であるため黒色）



『明治14年12月24日 卒業之證』に用いられた公印

印：「白澤宿小学区修身学校之印」

校名：栃木県河内郡第五番小学区 白澤宿 修身舎



『明治19年12月19日 卒業證書』に用いられた公印

印：「栃木県河内郡第十一番学区 白澤小学校之印」

校名：栃木県河内郡第十一番学区 公立白澤小学校

（白黒写真からの転写であるため黒色）



印：「栃木県河内郡第二十分学区白澤尋常小学校」

- ・明治20年に白澤尋常小学校と改称



『明治24年3月26日 證書』（修業）に用いられた公印

印：「栃木県河内郡古里高等小学校」

校名：同 上

- ・明治23年に古里高等小学校を併置する



『明治 26 年 3 月 25 日 修業證書』に用いられた公印

印：「栃木県河内郡白澤尋常高等小学校」

校名：同 上

- ・明治 26 年に白澤尋常高等小学校と改称する。
(白黒写真からの転写であるため黒色)



印：「白澤小学校同窓会印」

- ・同窓会は明治 44 年に発足。



印：「栃木県河内郡白澤農業補習学校」

1890 年 (明治 23 年) 10 月 7 日「小学校令」の改正 (明治 23 年勅令第 215 号) により、実業補習学校は小学校の一種とされる初等教育機関 (小学校) の補習機関であると同時に簡易な方法で生徒の従事する実業に関する知識・技能を授けることを目的とした。



印：「古里村白澤青年訓練所長之印」

1926 年 (大正 15 年), 16 歳以上の勤労青年男子を対象とし、労働の合間の余暇に修身及公民科, 普通学科, 職業科, 教練科を教える教育機関として青年訓練所が創設された。



印：「栃木県河内郡古里村白澤実業青年学校之印」

- ・青年学校は、当時の義務教育である尋常小学校 (のちに国民学校初等科) を卒業した後、中学校や高等女学校等に進学しない勤労青少年に対して教育を行った。実業補習学校と青年訓練所が統合したもの。白沢小には、昭和 15 年 6 月から昭和 22 年 4 月まで併置された。

- ・昭和 16 年 白澤国民学校と改称



印：「栃木県河内郡古里村立白澤小学校」

- ・昭和 21 年 白澤国民学校から古里村立白澤小学校に改称



印：「栃木県河内郡河内町立白沢小学校」

- ・昭和 30 年 町村合併により、河内村立白澤小学校と改称
- ・昭和 41 年 町制施行により、河内町立白沢小学校と改称

写真資料

1; 表紙 2013:国際総合企画㈱提供	30; 1954:古里村立白沢小学校『創立八十周年記念誌』
2; 1973:河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』P22	31; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)
3; 白沢小学校所蔵	32; 白沢小学校所蔵
4; 白沢小学校所蔵	33; 2012:白沢小学校撮影
5; 白沢小学校所蔵物品 (2012 撮影)	34; 2012:白沢小学校撮影
6; 白沢小学校所蔵	35; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)
7; 白沢小学校所蔵	36; 白沢小学校所蔵
8; 白沢小学校所蔵	37; 白沢小学校所蔵
9; 1973:河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』P29	38; 白沢小学校所蔵
10; 2012:白沢小学校撮影	39; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)
11; 白沢小学校所蔵	40; 白沢小学校所蔵
12; 宇加地家所蔵	41; 白沢小学校所蔵
13; 白沢小学校所蔵	42; 白沢小学校所蔵
14; 2013:白沢小学校撮影	43; 2013:白沢小学校撮影
15; 1973:河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』P28	44; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)
16; 本校所蔵 (白黒コピー)	45; 白沢小学校所蔵
17; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)	46; 2012:白沢小学校撮影
18; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)	47; 白沢小学校所蔵
19; 白沢小学校所蔵⇒栃木県立博物館貸出	48; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)
20; 2013:白沢小学校撮影	49; 白沢小学校所蔵
21; 白沢小学校所蔵	50; 白沢小学校所蔵
22; 白沢小学校所蔵	51; 白沢小学校所蔵
23; 1973:河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』P32	52; 白沢小学校所蔵
24; 白沢小学校所蔵品 (2012 撮影)	53; 白沢小学校所蔵
25; 1973:河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』P33	54; 白沢小学校所蔵
26; 河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』P34	55-1~6; 2013:白沢小学校撮影
27; 白沢小学校所蔵品 (2013 撮影)	56; 白沢小学校所蔵
28-1~3; 永井光二氏所蔵 (2013 撮影)	57; 2012:白沢小学校撮影
29; 1954:古里村立白沢小学校『創立八十周年記念誌』	58; 裏表紙 2013: 白沢小学校撮影

参考文献

- ・1954::古里村立白沢小学校『創立八十周年記念誌』
- ・1972:文部省『学制 100 年史』
- ・1973:河内町立白沢小学校『百年のあゆみ』
- ・1974:栃木県『栃木県史 資料編 近現代四』
- ・1982:河内町『河内町史』
- ・1990:栃木県連合教育会『新版 栃木県教育史 上巻・通史編』
- ・1994:栃木県立図書館『栃木県立図書館報 No.237 図書館だより 2 月号』

また、以下の方々にご協力をいただきました。記して謝意を表します。【敬称略】

宇加地太嘉雄 加藤幸雄 永井光二 栃木県立博物館 白沢小学校 P T A

平成 26 年 (2014) 3 月 1 日
白沢小学校創立 140 周年記念
『写真でみる白沢小学校 140 年のあゆみ』
文責：大塚雅之

